

学校法人 聖ヶ丘学園 八幡橋幼稚園

2022年度（令和4年）自己評価結果公表シート

八幡橋幼稚園では、本園の教育理念、教育目標達成に向け、2022年度の学校評価（自己評価）を実施しましたので、以下のとおりご報告します。

【自己評価】

- (1) 対象者：全職員13名
- (2) 実施日：2023年2月28日～3月8日
- (3) 実施方法：職員全体会議において、全職員に学校評価 幼稚園チェックリストを配付し、幼稚園の取組み状況や 自分自身の取組み状況について評価を求めた。

1. 学校の教育目標

<p>事業の目的：本園は、学校教育法第22条及び第23条に基づき、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とします。</p> <p>教育方針：明るく・素直に・のびのびと主体的に過ごす中で豊かに生きるための基礎力が身につくようにします。また、「非認知能力」「主体的・対話的・深い学び（アクティブ・ラーニング）」を重視します。</p> <p>教育目標：健康な心と体を自ら育て、様々な人と関わり、何ごとにも好奇心を持って意欲的に取り組む</p>
--

2. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画

<p>園の教育及び教育方針、教育目標のもと、評価項目に従って自己点検、自己評価を実施することにより、職員自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育及び保育内容の改善に向けた取り組みを目指していく。また、今後職員全体で園の運営、教育活動についての共通理解を深め、さらによりよい園づくりの足掛かりとしたい。園務効率化(レーザーキッズ)を活用し職員の業務効果とともにICT化及びペーパーレス化を推進する。</p>
---

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	理由
I 教育目標 ・教育方針	<p>教育目標・教育方針・教育課程は4月の職員会議で確認し、全職員が共通の意識を持ち教育活動に取り組んでいる。いつでも園長はじめ先生方と話し合える風土が整っている。子供たちの中にも“明るく素直にのびのびと”いう教育方針が根付いていて、また明日も登園を楽しみにできるような保育を心掛けている。</p> <p>今年度もコロナ禍でも子どもたちが安心して参加し過ごせるよう、子ども主体の保育に取り組み、一人ひとりに寄り添う教育活動を心がけた。</p>

<p>II 教育課程 ・指導計画</p>	<p>幼稚園教育の基本とし、幼稚園に於いて育みたい資質・能力を職員間で共有し指導計画を立てている。子どもたちが興味を持てるような環境設定とともに指導計画書の作成については柔軟な対応をしている。コロナ禍において「学校の新しい生活様式」をもとに「やってみたいこと・興味のあること」に応じた活動や行事を工夫して行った。今後は正規職員と非常勤職員間の連携を取るための時間を設け、互いに研鑽しながら資質向上に努めていきたい。</p>
<p>III 教育環境</p>	<p>今年度は園庭遊具を撤去したことで、子どもたち同士で工夫し関わる姿が見られた。今後は子どもたちの遊びや身体活動が広がるような園庭環境の充実と整備を検討していく。また、感染症拡大防止に努めながら園外の活動も積極的に行った。</p> <p>年少組はこいのぼり見学、野毛山動物園にも出かけた。年長児と年少児が手を繋いで森林公園やうみの見える公園にも徒歩で散歩に出かけ交流を深めた。また、年中組は夜の幼稚園と称して、昼から登園し夜の幼稚園を楽しむ活動を行なった。職員は子どもたちが何をやりたいかを見守り、活動が楽しく展開されるためにクラスで話し合いを進め、子ども主体の保育を心掛けている。特にクッキングは、各クラスで子どもたちが意見を出し合って発達に沿った活動を行った。年長組はカレー、ホットケーキ、おにぎりを作り年少児に振舞った。年中組はお菓子を各家庭から持ち寄り全園児でパーティを行った。年少はフルーチェ作りをした。</p> <p>どこでも子どもたちが思い切りあそび続けることができるように、季節に合った環境づくりとしてコーナーあそびを設けて個別の対応も丁寧に関わった。(毛糸からげ、ろうそく作り、編み物など)</p> <p>学園内交流として育和農園でお芋ほりを行い、虫探し、芋のつる等で泥んこになって自然に触れる機会もあった。</p>
<p>IV 教育の内容・方法</p>	<p>教育課程を基に教育内容や活動を定め、身近なものに興味、関心を持って、何ごとにも自主的に取り組めるように支援している。5領域のねらいや内容、幼児期に育ってほしい10の姿を職員で共有し、保育の質の向上に努めている。絵本や物語などに多く触れ、一人ひとりの個性に合わせて、強制するのではなく“興味を持つ”ということを大切にに関わりイメージを広げて楽しめるようにした。また、園庭で野菜や稲、草花を育てたり、虫や小動物を飼育したりすることにより、豊かな思いやりの心が育つよう心掛けている。遊具、教具、自然の素材(羊毛100%の毛糸など)を使用し、遊びを通していろいろなことを経験し、学べるよう小さい時から本物に触れ、感性の育ちを大切にしている。日々、子ども主体の保育を目指して職員間の意見交換も大切にしている。</p> <p>健康と安全については、子どもたちの視診を丁寧に行い、家庭と連携を取り</p>

	<p>ながら健康観察を行った。また、怪我や事故の報告も適切な対応で報告を徹底して職員間の共有ができています。</p>
V 教師の役割 ・資質向上	<p>今年度は対面研修に参加する機会が増え、自己研鑽に努めている。研修会で学んだことについて報告会を設け会議録を作成し情報共有し資料提出も行っているが、非常勤職員も参加しての内部研修については課題もある。</p> <p>研修で学んだことを保育に生かし、子ども一人ひとりの姿を情報交換し全園児の様子を理解した上で関わっている。</p> <p>一人ひとりの子どもに専門性のある温かい声かけを行ない、保護者との関係性もとても円満である。</p>
VI 子育て支援	<p>在園児の保護者からの様々な相談については、各家庭の実態を踏まえ丁寧に対応している。また、子育てに不安のある保護者に対しては、個別の面談を設け気持ちを受け止め親身に対応している。</p> <p>担任、主幹教諭・園長が窓口となり相談内容に応じた支援をしている。インクルーシブ教育については療育センターの巡回指導に来てもらい良好な関係性を築き子ども一人ひとりの育ちを大切に関わるように努めている。</p> <p>今年度も感染症拡大防止に努め、運動会での未就園児の演目を省略したこと、幼稚園見学はパワーポイントを作成し行ったため、実際の子どもたちの様子を見ていただく機会がなかった。未就園児の受け入れや園庭開放は、預かり保育との兼ね合いで実施できていないところが課題ではあるが、今年度も園長や主幹教諭が地域の子育て支援施設（親と子の集いの広場）に参加し交流を深めた。</p> <p>また保護者会や保育参加等については、感染症拡大防止に努めて行なった。iPadを取り入れたことで、幼稚園での子どもたちの様子はドキュメンテーションを作成、配信して園の様子を知らせた。今後は保護者が幼稚園に参加する機会を増やしていけるように努めたい。</p>
VII 地域住民や関係機関との連携	<p>地域の高齢者が中心になって活動している掘割川のサケの放流などに積極的に参加しているが直接お年寄りと交流することは難しく課題である。しかし、卒園生の方が営む果物屋や米屋等に出向き交流を深めることもできたので、今後も繋がりを大切にし、交流内容を検討していきたい。</p> <p>幼保小連携については新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら職員は小学校のスタートカリキュラムに参加したが、子ども同士の交流が出来なかったのが課題である。次年度は幼稚園と小学校の接続が円滑に進むよう職員間の連携が必要である。</p> <p>警察署主催の交通安全教室を行い、交通ルールについての知識を深めた。また、市電保存館へ七夕飾りを展示してもらい、見学にも行き交流を深めた。</p>

VIII 運営管理	<p>全職員が就業規則などの規程を確認し、守秘義務を守り質の高い保育を目指している。聖ヶ丘学園本部及び同附属園との連携を密にして業務の効率化と改善に向け、人事労務、財務等の面から分析を行っている。毎月、様々な事態を想定した避難訓練を実施し、園児の安全確保に努めた。安全管理マニュアルを策定し事故等を防止する体制を整えている。事故報告書は各担任が記述し、再発防止の意識を高めている。</p>
-----------	--

#### 4. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	<p>今年度も園の教育及び教育方針、教育目標のもと、自己評価を行うことにより、幼稚園教育活動における各自の保育を振り返る機会を持つことができた。全職員が子ども主体の教育を目指し、コロナ禍の安全、安心な環境の整備、活動の充実等、子どものやりたいことを実現できるように子どもの声に耳を傾け、意見を受け止め、一緒に考え工夫し、職員間で子ども主体の保育、子ども理解を深めたことは評価できる。</p> <p>今年度は会議等で職員一人ひとりの考えを伝え合う機会を設け、語り合う風土、開かれた同僚性の形成につながることを目的とした。しかし、職員、非常勤職員が一同に集まる機会を持つことが難しかったので次年度の課題とした。</p> <p>子育て支援、地域との連携等は次年度に向けての課題であるが、引き続き子育て支援拠点との連携を継続していきたい。</p>

#### 5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教育課程の編成	<p>幼稚園教育要領に基づき、子どもたちの資質、能力にあった計画を立て、今を大切に、何をやりたいのかを即座に察知し柔軟な対応により、意欲的なあそびを展開していかれるように職員同士で共有を図っていく。</p> <p>また、障害のある幼児に対しては個々の幼児の実態を把握し、集団の中で生活することを通して全体的な発達を促していくことに配慮していき、かつ個別の支援計画を作成し活用することに努める。</p> <p>今後も円滑な業務遂行のため、ICT化により、ドキュメンテーションや指導計画作成に取り組んでいく。</p>
保育環境の充実	<p>子ども主体の保育を大切に意欲や探求を深められるように環境設定をしていく。また、園庭の大型遊具を撤去したことで、それに代わる</p>

	<p>全身運動を促すための環境についても今後の検討事案としていく。</p>
<p>安全管理体制の強化</p>	<p>自然災害や火災等に対して実際の避難をイメージして訓練を毎月行い振り返る。また、バス乗車時の安全管理、避難誘導についても全職員、統一の意識を持てるようにする。</p> <p>また、不審者対応についても命を守る行動が職員、子どもが共にとれるよう警察関係者等専門の方に指導依頼し防犯意識を高めていきたい。</p> <p>園舎施設全体の各箇所における安全点検を担当者中心に定期的に行う。園内の教具、備品についても同様の徹底を行う。</p> <p>引き続き、感染症拡大防止の対策は継続し衛生的な環境構築に努める。</p>
<p>教職員の資質向上</p>	<p>職員は自己研鑽や幼稚園内での研修に加え、キャリアアップを目的とする体系化された外部研修の制度等に合わせ、自らの職位や職務に合った能力を身につけるために研修を受け、保育の質の向上に努める。さらに園内での情報交換は常勤・非常勤の区別なく、誰もが共通の意識を持って全園児と向き合えるよう努める。園外研修で学んだことを全職員に報告し、学びを全員のものとする。</p> <p>また、学園内の施設職員との交流を行くことにより、乳児から幼児期における保育の連続性の大切と発達の理解を深めていきたい。</p>

## 学校評価 幼稚園チェックリスト〈ステップ1〉

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	今後取り組むべき課題

### I 教育目標・教育方針

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	園の教育目標や教育方針はわかりやすい。	A
②	園の教育目標が子どもたちの中に生きている。	
③	園の教育目標や方針について、園長や他の先生方と話をする機会がある。	
④	園の教育目標は、幼稚園教育要領の内容に沿ったものになっていると言える。	
⑤	教育方針は、その時々幼児に合ったものになるように定期的に見直されている。	
⑥	園の教育目標は、園の創立の理念を生かしている。	

### II 教育課程・指導計画

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	園の教育課程は、教育目標を生かして作られている。	A
②	子どもたちの年齢ごとの教育課程がある。	
③	園の教育課程は、園長と先生方が話し合いながら作られている。	
④	園の教育課程は、必要に応じて見直されている。	
⑤	幼児のしたいことや、興味のあることを取り入れられるようになっている。	
⑥	幼児の教育に、地域の自然や施設を活用している。	

### III 教育環境

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	活動の環境を作る時には、指導計画を意識している。	A
②	幼児の動きや視線の動きに気を配った構成をしている。	
③	幼児の思いや言動を参考にしながら、保育室の装飾や展示を考えている。	
④	自然や社会とかかわりを持てるような体験（芋掘り、消防署見学など）を取り入れるようにしている。	
⑤	環境の構成について、先生方の中で積極的に意見交換が行われている。	
⑥	年齢の異なる幼児が、触れ合えるような環境構成をしている。	

#### IV 教育の内容・方法

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	教育内容や方法は、園の教育課程を基にして作られている。	A
②	幼児の家庭での様子を参考にしながら、援助の内容を工夫している。	
③	園で動物を飼ったり植物を育てたりしている。	
④	遊びを通してルールを学んだり、自分の気持ちに折り合いをつけて、相手の気持ちに気付けるといった経験を積めるような工夫をしている。	
⑤	幼児が意欲的に造形活動（描画・製作）をする時間を大切にしている。	
⑥	食べ物についての話をする機会がある。	

#### V 教師の役割・資質向上

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	一人ひとりの幼児をよく観察するように心がけている。	A
②	すべての幼児に平等に接するように心がけている。	
③	その場にふさわしい言葉遣いができる。	
④	研修に行った先生の研修内容は、全員に紹介される。	
⑤	幼児のモデルとなれるよう気をつけている。	
⑥	保護者との信頼関係ができています。	

#### VI 子育て支援

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	保護者の子育てについての相談にのっている。	B
②	園や園庭の開放を行っている。	
③	子育て支援の内容について全員で話し合いをしている。	
④	子育て講演、情報提供を行っている。	
⑤	3歳未満の、親子の子育て支援をしている。	
⑥	幼児のことについて相談できる専門機関がある。	

#### VII 地域住民や関係機関との連携

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	地域の人々と親しく挨拶ができる。	B
②	地域の小学校の行事や公開授業を見学に行く。	
③	地域の方は、園のことに興味を持ったり、園の方針を理解している。	
④	地域のお祭りや伝統行事に参加することがある。	
⑤	保護者だけでなく地域の人でも行事に協力している。	
⑥	地域のお年寄りとの交流を大切にしている。	

## VIII 運営管理

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	園児や保護者のことを園の外で話題にしない。	A
②	現金の管理は間違いのないように行っている。	
③	先生方は、災害や事故報告書の作り方を知っている。	
④	保護者の意見はしっかりと聞き、園長に報告している。	
⑤	園の施設の安全点検、衛生管理をしっかりと行っている。	
⑥	園内での役割分担がはっきりと決まっている。	